

一、賠償及金對他人財產、用物等財產權利之確立  
 二、賠償權利之認定、賠償中必應考慮、賠償增大、分配、公正  
 化、債務之整理  
 三、賠償之範圍  
 四、賠償之對象  
 五、賠償之時期  
 六、賠償之擔保  
 七、賠償之執行  
 八、賠償之消滅時效  
 九、賠償之其他事項

外務省

一、賠償及金對他人財產、用物等財產權利之確立  
 二、賠償權利之認定、賠償中必應考慮、賠償增大、分配、公正  
 化、債務之整理  
 三、賠償之範圍  
 四、賠償之對象  
 五、賠償之時期  
 六、賠償之擔保  
 七、賠償之執行  
 八、賠償之消滅時效  
 九、賠償之其他事項

外務省

一、研究ノ目的  
 二、研究ノ方法  
 三、研究ノ結果  
 四、研究ノ意義  
 五、研究ノ結論  
 六、研究ノ附註  
 七、研究ノ参考文献  
 八、研究ノ謝辞  
 九、研究ノ人名  
 十、研究ノ年次  
 十一、研究ノ場所  
 十二、研究ノ設備  
 十三、研究ノ補助  
 十四、研究ノ出版  
 十五、研究ノ流通  
 十六、研究ノ保存  
 十七、研究ノ複製  
 十八、研究ノ翻譯  
 十九、研究ノ註釋  
 二十、研究ノ索引

外 務 省

一、研究ノ目的  
 二、研究ノ方法  
 三、研究ノ結果  
 四、研究ノ意義  
 五、研究ノ結論  
 六、研究ノ附註  
 七、研究ノ参考文献  
 八、研究ノ謝辞  
 九、研究ノ人名  
 十、研究ノ年次  
 十一、研究ノ場所  
 十二、研究ノ設備  
 十三、研究ノ補助  
 十四、研究ノ出版  
 十五、研究ノ流通  
 十六、研究ノ保存  
 十七、研究ノ複製  
 十八、研究ノ翻譯  
 十九、研究ノ註釋  
 二十、研究ノ索引

外 務 省



解除  
第7回公開

(平和條約問題研究資料)

昭和二一・一二・三一

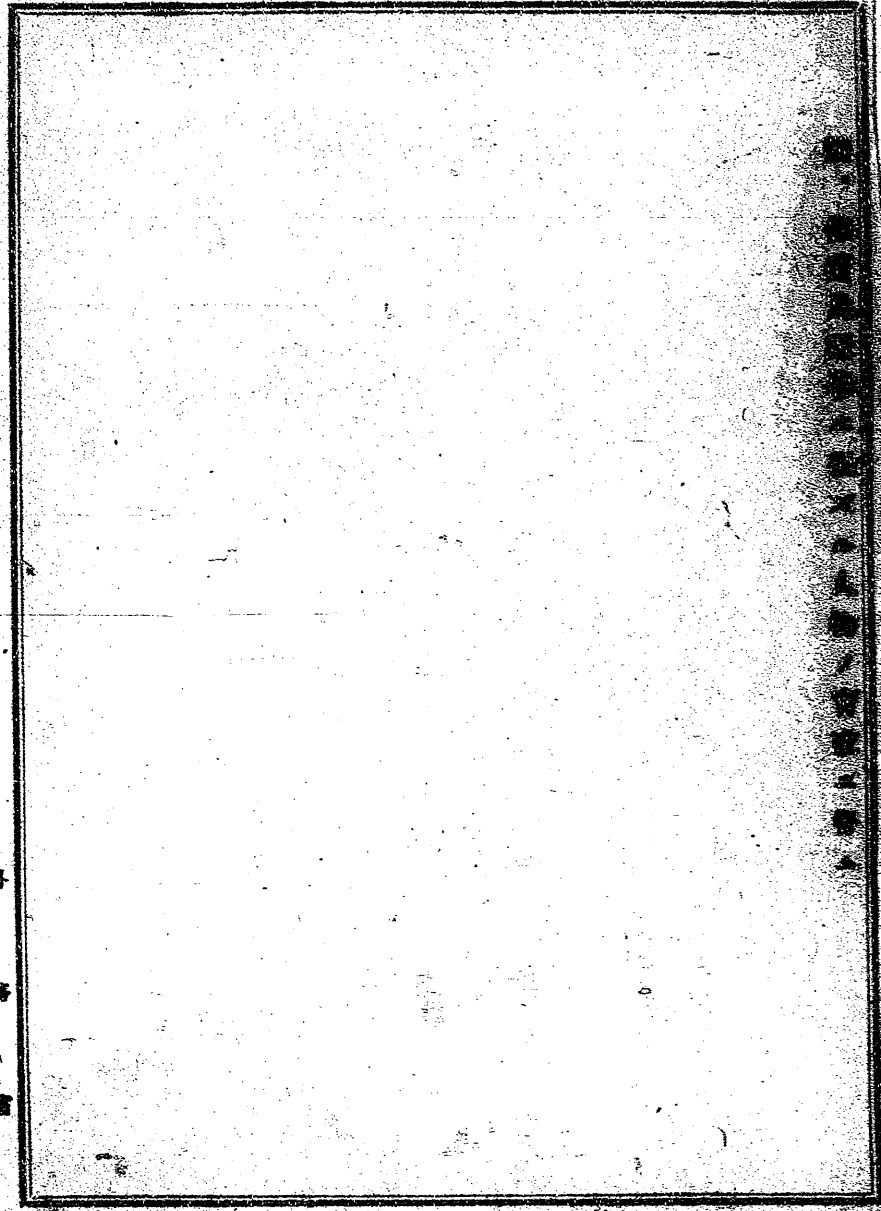
課題  
一般問題

3. 平和條約ノ内容ニ關スル原則的方針(研究試案)

政務局

外務省

0025



外務省

0024

報

除  
第 7 回公開

平和條約內容ニ關スル原則的方針

- 一 主權恢復時期ノ具體的明示
- 二 民族共同體ノ宗家トシテノ皇室制度ノ問題ヘノ無干涉
- 三 民主主義的平和國家トシテノ生存ヲ確保スルニ足ル經濟的條件ノ保障
- 四 國際正義ノ相互的遵守ニ基ク領土的安全保障
- 五 人種的平等ノ確認

外務省

（平和條約問題研究資料）

昭和二十一年二月二十六日

課題

一般問題

4. 聯合國側ノ提案ニベキ平和條約案ノ内容ノ想定ト  
 我方ノ希望スヘキ平和條約ノ内容トノ比較検討  
 （研究試案）

政務局

外務省

目 次

- 一 前 言
- 二 根本方針
- 三 準據文書
- 四 体裁ノ想見
- 五 内容ノ想定ト之ニ對スル意見
  - (一) 領土の條件
  - (2) 指導原則
  - 軍事の條件
  - 經濟的條件
    - (1) 再軍備ヲ可能ナラシムル如キ産業ノ制限
    - (2) 賠償ノ取立

外務省

- (3) 原料ノ入手ト世界貿易ヘノ參加
- (4) 交通ノ制限

外務省

前 言

(一) 前大戰後ノ「ヴェルサイユ」講和條約ノ特質ハ左ノ二點ニ在リ  
 (1) 「命令セラレタル平和」ニシテ、條約案ニ對シ獨逸國ノ文書ニ依ル「コメント」ガ一度ニ限り許サレ、聯合國ノ改訂案ハ五日間ノ最後通牒ヲ以テ調印ヲ要求セラレ、拒絶ハ戰爭再開ヲ意味スルコトカ宣告セラレタルコト

(2) 條約案ハ「ウイilson」ノ努力ニ依リ獨逸降伏ノ際受諾セル十四「ポイント」ヲ基礎トシ作成セラレタルモ右ハ種々ノ點ニ於テ歪曲セラレタルコト

(二) 第一點ニ關シテハ後ニ獨逸ハ勿論聯合國ノ輿論モ斯クノ如ク強要セラレタル調印ハ道義的ニ獨逸ヲ拘束スル力ナシトセラレ、第二點ニ關シテハ聯合國ノ公約違反ノ條約ハ「テインテッド」ドキメント「ナリトセララルニ至レリ

(三) 本答案作成ニ當リ、E・H・カ、I著「平和條約以後ノ國際關係

外務省

ニ於ケル「ヴェルサイユ」條約ニ就イテノ右ノ批評ヲ「前言」トシテ再録ス

外務省

二、根本方針  
 平和條約ハ各國の世界的世界情勢ニ應内閣制ノ熟チ、ル裡ニ之ヲ締結  
 スルハ得策ニ非ラズ即チ「命令サレタル平和」及「原理ニ至曲  
 ル條件」ヲ避ケル爲ニ於テ十分ニ準備スルヲ待ツヲ要スルヲ以  
 テナリ從ツテ妥當ナル平和條約ヲ早期ニ締結セシムル努力ハソ  
 ノ主力、國內民主主義體制ノ確立等聯合國體ノ興望ニ合致スル如  
 キ狀態ヲ齎ラン其ノ敵愾心、憎惡、復讐心ノ自然的消失ヲ購致ス  
 ルニ向クルヲ要ス

外務省

三、準據文書

我國ノ調印スベキ平和條約ハ「ボツダム」宣言ニ準據シ、且ツソ  
 ノ制限ヲ受クルモノナルベキハ、少クトモ道義的ニ規定セララル  
 處ナリ。乍併「ボツダム」宣言ノ規定シ居ラザル點ニ付キテハ、  
 「カイロ」宣言、大西洋憲章、遠クハ「ウイルソン」ノ十四「  
 イント」ヲモ援用シ得ベク、結局ハ「國際正義」ト「平和確保」ニ  
 最善ナル方法」トニ依リ規定セラレ、又セラルルコトヲ要ス。國  
 際聯合規定モ此ノ意味ニ於テ研究セララルルヲ要ス。

外務省